

加配の活用による多忙化解消に取り組んだ実践  
 高山市立新宮小学校

1. 目標

- ・担任の時間外勤務を1日1時間減少させ、月あたり20時間軽減する。
- ・月45時間以上の時間外勤務を0人にする。

2. 加配教員に係る実施状況

【小学校教科担任】

加配措置状況		実施教科	実施状況					
非常勤	(週時間)		5年生			6年生		
			実施	学級	時間	実施	学級	時間
1	22	国語	○	2	10	○	2	10

3. 実践の内容

(1) 加配の活用 (取組項目②)

- ・高学年に空き時間を確保する。(数字は週あたりの時間数)  
 6年生担任：国語で5時間、算数で5時間、計10時間の空き時間  
 5年生担任：国語5時間の空き時間      4年生担任：算数5時間の空き時間
- ・6年生担任は、空き時間を校務分掌に係る業務や教材研究等に活用する。
- ・時間割を工夫し、フリーの職員の授業や5時間授業の日の設定などで、1～3年生の担任にも一日1時間以上の空き時間を確保する。

(2) 教員の指導力向上 (取組項目⑦)

- ・教職員の指導力を向上させ、保護者や地域の信頼を得ることが一番の多忙化解消につながると考え、下記の内容を徹底する。  
 事故やトラブルを生み出さない … 未然防止を図る  
 生徒徒指導事案に早期対応早期解決 … 問題が小さなうちに対処する  
 保護者の思いに心を馳せる対応 … 信頼感が問題を大きくしない

(3) 定期的な職員会の廃止等 (取組項目③)

- ・職員会議や指導部会をなくし、週1回の打ち合わせを職員会議として位置付ける。(月曜日を5時間授業として会議を実施)

(4) その他

- ・校長だよりや職員会議で指示や意識づけを行い、職員の意識改革を図る。
- ・週案の簡略化    ・掲示は基本的になし    ・長期休業中の会議なし
- ・通信は月2回    ・掃除は週2回とし、昼の職員の仕事を確保
- ・復命書の簡略化
- ・年休20日の取得を推進する。
- ・18時を最終退校時刻と定める。水曜日を特に早く帰る日と定める。
- ・勤務時間と校務ではない時間の区別を明確にし、タイムマネジメントする。

## 令和3年度多忙化解消アクションプラン

- ・校務補助員を活用し、文書の印刷や配付、消毒や点検作業などの業務を軽減する。
- ・校長は早めに教育活動の方向性を示し、担当が見通しをもって具体的方途や明確な視点を提案することで余裕を生み出す。

### 4. 評価結果

※高学年の加配活用分のみ。

	5・6年生担任の 平均空き時間数			教職員の月当たりの平均 時間外勤務時間（9月～11月）			
	5年生	6年生	平均	9月	10月	11月	9～11月平均
R2	10.0	10.0	10.0	73時間26分	67時間39分	62時間22分	68時間45分
R3	5.0	10.0	7.5	55時間25分	72時間29分	47時間52分	58時間35分

### 5. 成果と課題

#### (1) 成果

- ・昨年度、5・6年生担任の月別平均時間外勤務時間  
10月：60.7時間、11月：58.0時間、12月：60.0時間  
今年度、5・6年生担任の月別平均時間外勤務時間  
10月：76.0時間、11月：70.4時間、12月：47.5時間  
昨年度とは行事の期日が異なるため、10月11月は多くなっているが、昨年度と同様の行事を実施した12月では、5・6年生担任の時間外勤務の減少が明らかである。国が目標としている「45時間」に迫る改善がみられた。  
また、全職員の平均も、昨年度と比べて10時間の減少を達成した。
- ・今年度も本校は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、感染防止対策の徹底や具体策の練り直し、行事の期日変更の繰り返しや開催方法の検討、授業形態や日課に至るまで、特別な配慮が必要だった。そんな中でも改善できたことは成果と言える。
- ・全ての職員に空き時間を設けることで負担を軽減し、時間外勤務が減少した。

#### (2) 課題

- ・「誰かが残っていると自分も…」という考えを変えられない職員がいる。自らタイムマネジメントをして、時間外勤務時間を減らす努力をする必要がある。
- ・職員で多忙化解消のアイデアを出し合って、さらなる減少を目指していきたい。
- ・高学年の時間外勤務時間の減少と同様に、他の職員の時間外勤務時間も減少してきた。全ての月で目標の「月45時間以上の時間外勤務を0人にする」の実現に向けて実践を続けていきたい。